

# 福島県における復興祈念公園シンポジウム～公園から福島の再生を考える～ 開催概要

福島県における復興祈念公園の検討にあたり、国土交通省東北地方整備局、福島県、双葉町、浪江町は、「福島県における復興祈念公園基本構想（案）」をもとに、今後の地域の復興と復興祈念公園との関わりを探る、「福島県における復興祈念公園シンポジウム～公園から福島の再生を考える～」を開催いたしました。

当日は、東京大学大学院工学系研究科 横張 真 教授（福島県における復興祈念公園基本構想検討調査有識者委員会 委員長）に基調講演を頂くとともに、パネルディスカッションを行いました。ご参加頂いた方々は約100名に及び、震災の記憶と教訓の伝承のあり方や公園と福島県の復興まちづくりとの関係等多数のご意見・ご感想を頂きました。このシンポジウムの成果を活かしつつ、一層復興祈念公園の検討を行ってまいります。

## 【概要】

- 日 時：平成29年5月28日（日）13：30～15：30
- 会 場：ラコパふくしま 5階 大会議室（福島市仲間町4-8）
- 主 催：国土交通省東北地方整備局・福島県・双葉町・浪江町

## 第1部 基調講演 「福島県における復興祈念公園について」

講師：横張 真（東京大学大学院工学系研究科教授）

### 講演概要

- 復興祈念公園を、復興・祈念・公園という3つの言葉から読み解く。「公園」は、市民の心身の健康のために不可欠な場として成立した歴史がある。「祈念」は、“pray”と“memorial”という2つの意味のある言葉と考える。福島県の「復興」を公園から考えようとする時、復興祈念公園の計画を周辺地域の復興（産業復興、居住、地域再生）とどのように関係づけるか、それに公園がどのような役割を果たせるのかを考えることが重要である。
- 過去の悲しい事実に向き合う時、感傷に逃げない静謐さ・冷静さは、忘れてはならない姿勢の一つである。
- 日々変化する復興祈念公園周辺の復興のプロセスとシームレスにつながる公園のあり方が、復興祈念公園の目指すべき方向性である。復興祈念公園が地域の復興の核になりながら、周辺のまちづくりと一体化して、強い意志の発信につながっていくことが重要である。



基調講演



会場の様子

## 第2部 パネルディスカッション

コーディネーター：横張 真（東京大学大学院工学系研究科教授）

パネリスト：市岡 綾子（日本大学工学部専任講師）

長林 久夫（日本大学工学部名誉教授）

伊澤 史朗（双葉町長）

馬場 有（浪江町長）

### パネリストの主なご意見

#### 市岡 綾子（日本大学工学部専任講師）

○花を用いながら100年続くストーリーをつくることで、立場や時代が変わっても、想いが続いていく。地域にあったもの、起きたことを後世に伝え続けるためには、単純化、象徴化して伝えていくことも重要である。

#### 長林 久夫（日本大学工学部名誉教授）

○多様な主体が公園に参画し、人の往来が連続していくことが重要であるとともに、それらの主体が公園づくりに参画できるシステムづくり、事業運営に対する財政的、人的サポートが重要である。

#### 伊澤 史朗（双葉町長）

○復興祈念公園は、まちの復興の起点となってほしい。福島県の震災の記憶、記録を後世に正確に伝えるためのデータを、今しっかりと集めて残した上で、復興祈念公園とアーカイブ拠点施設が有機的に連携していくことが重要である。

#### 馬場 有（浪江町長）

○請戸小学校で起きた奇跡と町に起きた悲劇を忘れず、また町民の絆をつなぐ場所となることが復興祈念公園の役割である。さらに、復興祈念公園を通じて世界に復興を発信していくことが重要である。

### 参加者の主なご意見

- 3.11に何が起きたのかを、末永く語り継いでいけるような公園を期待する。
- 双葉町・浪江町の復興の取組と有機的につながる公園となってほしい。
- 多くの方々が交流する場となって心がつながり、故郷ふくしまに対して誇りを強く持つことができるような公園となってほしい。
- 公園が県内はもちろん日本全国、世界に情報を発信する拠点となってほしい。
- 公園内に伝統行事を行うことのできる場所があるとよい。 など



パネルディスカッション



会場の様子